

# 浜田市 不妊3治療 支援を充実 不育症も助成 少子化対策

浜田市は2016年度、

不妊治療費助成の拡大に加え、流産や死産などを繰り返す不育症の治療費助成を新設した「安心お産応援事業」に乗り出す。妊娠・出産を望む夫婦の経済的負担を和らげるため、島根県内19市町村では初めて、一般

不妊、特定不妊、不育の三つの治療分野を網羅した支援制度を整える。16年度一般会計当初予算案に事業費4870万円を盛り込んだ。

市によると、08～12年の合計特殊出生率は1・65で、県平均の1・64をわずかに

上回っているものの、人口の維持に必要な2・07～2・08を下回る。晩婚、晩産

化が進む中、不妊症や不育症に悩む家族への支援を拡大し、少子化対策にもつなげる。夫婦の両方、または、どちらかが市内に居住している場合が対象になる。

人工授精などの一般不妊治療の助成は、限度額を従来の年4万円から8万円に引き上げる。不育症治療への助成は、1回の妊娠での治療に対して5万円を上限に行う。不育症治療助成は15年度から出雲市が行っている。

体外受精や顕微授精といった特定不妊治療については、県の助成に新たに市独自で最大7万5千円を上乗せする。県助成の対象は、夫婦の所得が計730万円

未満の世帯だが、上回っている場合でも市の上乗分は助成する方針。金助成期間、回数、対象は県の条件に合わせる市によると、市内の治療件数は、一般不妊60件、特定不妊が約60件、育が5件程度あると、

市子育て支援課の有福長は「妊娠や出産を望みに、少しでも多く子ど持ってもらえるよう体制を整えたい」と話している  
(白塗)